

第17回取手市議会感染症対策会議議事記録

○開催日時

令和3年1月8日（金）午後6時01分から午後7時07分まで

○会議場所

オンライン会議

○出席構成員

座長 齋藤 久代

副座長 結城 繁

構成員 金澤 克仁・山野井 隆・染谷 和博・関戸 勇（代理）・細谷 典男

※この会議は、傍聴を認め、後日、会議映像記録を市HPにて公開を決定。

○職務として出席した者

議会事務局長 吉田 文彦

議会事務局次長 岩崎 弘宜

○協議の経過

午後 6時 01 分開議

○齋藤座長 それでは、第17回取手市議会感染症対策会議を開会いたします。本日の会議には、結城議員、金澤議員、山野井議員、染谷議員、細谷議員が出席しております。なお、会派、日本共産党代表の加増議員から体調不良のため、関戸議員が代理出席しています。以上、出席者7名となっております。

この会議は傍聴も認めます。傍聴者は発言できませんので、ご理解願います。また、会議映像記録をホームページにて事後公開してまいりますので、ご理解願います。

本日の会議は、無会派クラブ代表、細谷議員からの開催請求により開催するものです。

それでは議事に入ります。まず、12月24日付け提言事項への回答についてです。私から簡単に報告いたします。皆さんは既にサイドブックに掲載されております回答書については御覧いただいているものと思います。提言事項が2つありました。1つ目が、ホームページにお知らせしていること——医師会との連携の上、発熱時の受診方法、新型コロナウイルスに罹患したときなどの正しい知識について継続的な周知を、ということでございます。これは既にホームページにもお知らせがありますけれども、今後も医師会と連携して発信していただけるということでございます。医師会のホームページを参考に、今後も継続的に行っていくということございました。それから第2の、新型コロナウイルス罹患者の受入れを行っている医療機関に対して必要な財政的支援を、ということにつきましても、回答書にあるとおり、3市1町——取手市、守谷市、つくばみらい市、利根町で事務調整を図って全面的に協力できるよう準備を進めてもらっているということでございます。また確認事項がございました。年末年始の体制についてということでございますが、これは保健センターが2人ずつ3日間頑張ってくださいまして、33件の問合せがあったりしました。また、混乱もなくスムーズな運営があったようでございます。また、ワクチン接種の準備の進捗状況

についてということで確認事項ということで挙げられておりました。これは12月18日に実施された国の自治体向け説明会を受けて、経費——関係経費等を含めた具体的なワクチン接種に向けた準備を現在今進めているところですよという文言でございましたので、これについては副議長とともに、もうちょっと詳しい状況が、ということで聞いてまいりました。1月5日に医師会事務局と各市で打合せを既にさせていただいているということでございます。それから、2市1町としては——行政としては、個別接種でお願いしたいという要望も伝えたということもおっしゃっておりました。それから、国のほうから示された冷蔵庫とか、それから、やり方についてはこれは厚労省のホームページでも確認できるかと思いますが、そのとおりでございまして、地方自治体が主となって運営をしていくということでございます。そして今、いろんな部分で準備を進めていますけれども、2月下旬頃から医療機関、そして高齢者、そして一般の順番でワクチンの接種が行われるというような予定だそうです。で、そのワクチンの料金については、全部国費ということでございますね。また準備についても国費でございます。その中の準備期間のいろんなこと、どのような準備をしなくてはいけないかということについても、取手市としても準備を進めているところであるということですよ。それから、その中では予防接種のシステムを改修しなくてはいけない。それからクーポン券を2回分発行しなくてはいけないんですけれども、その印刷のこと、それから郵送費のこと、また、予約をするに当たってのコールセンターとか予約センターなんかも準備をしなくてはいけないということで、これも今、業者さん含めて今当たっているところだということで、聞き取りをしてまいりました。そういうところでしょうか。

副議長、何か補足するところがあつたら報告をお願いしたいですが、いかがですか。

○結城副議長 皆さん、こんばんは。昨日、議長と一緒に行ってきまして、補足としては、さっきのホームページの件なんですけれども、これは年末年始のバージョンでやっていたということがあつたそうですけれども、私たちの要望を受けて、継続してやりますということがありました。それとあつたは、確かにワクチンについては、まだ国からの形がはっきりと示されてない部分もあるんですけども、今医師会と詰めているということで、一応、議長が言ってるように、国と県の支援金でお金のほうはとりあえず出していくというような話になっているということです。それとやっぱり、コールセンターであつたりとかクーポン券であつたりとか、そういったものは委託にするような話なので、その辺のことを今、非常に市としても、どこを選んだらいいのかということも考慮しているという、そのような感じですね。以上です。

○齋藤座長 ありがとうございます。

吉田局長、よろしいでしょうか。大丈夫ですか。

〔吉田議会事務局長うなずく〕

○齋藤座長 ありがとうございます。それでは報告については以上です。

ただいまの件につきまして、確認事項や質疑等ございませんか。

関戸議員。

○関戸議員 1番目の中で、——2の中で新型コロナウイルス感染症罹患者の受入れを行っている医療機関に対し、必要な財政的支援をとというのがあります。それで、御存じのように医療機関が大変経営が逼迫しているということが、いろいろテレビなどでも新聞などでも報道されていますけれども、この必要な財政支援というのは、そういうところも含めてということではなかったんでしょうか。回答はそういうふうになってないものですから、そこをちょっと確認したいと思います。

○齋藤座長 回答どおりでして、医師会の先生方からの要望をこういう形で伝えさせていただいて、今準備を進めていただいているというところでございます。

関戸議員。

○**関戸議員** そうすると、ここにある回答というのは年末年始を中心に回答されているんですけども、そういうことではなくて、その先も含めて検討してるということなんですか。

○**齋藤座長** そこまでは確認をしておりません。この文言どおりで理解していただきたいと思えます。

○**関戸議員** そうすると、ここで言っている財政支援というのは、ここに回答に出されているけども、それとは違うところまで含めた財政支援という——提言のほうはそういうことですよ、そこだけちょっと再度確認させてください。

○**齋藤座長** どうでしょうか皆さん、ちょっと私の記憶がはっきりしませんけれども、医師会からいただいた財政ということ——財政支援については、このまま文章どおりではなかったかと思えますが違っていましたかしら。

金澤議員。

○**金澤議員** 私もこの回答を読んで、少し関戸さんと通ずるところもあるんですけど、何か回答があまりにも大ざっぱというか、抽象的というか、こちらからの提言は比較的具体的に出しているはずなんですけれども、この回答がすごく分かりにくいなというところが、すごく感じました。医師会の事務局から出されてるものを議会がしっかり確認してればそれで全部分かるだろうという意味なのかもしれませんけれども、もうちょっと丁寧な回答を求めてもいいのかなと。多分、たしか議会から求めたのは、年末年始の部分の人件費を、取手市でちゃんと見たほうがいいじゃないのという内容だったと思うんですけども、何か少し要望・提言とこの回答に少し何かずれというか、回答は少し的を外しているような気がしますけれども、いかがでしょうか。

○**齋藤座長** いかがでしょう。それでは、さらに細かく内容についても、分かるところでまた報告をもらうようにいたしましょうか、そのようでよろしいですか。

吉田局長。

○**吉田議会事務局長** すみません、確認なんですけど、こちら提言事項の2ということで、こちらの提言事項2に至る背景や経過の中を確認していただきますと、年末年始の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの診療・検査体制については、取手北相馬休日夜間緊急診療所で医師会の医師が出務して行くことになる。取手北相馬保健医療センター医師会病院も、医師、看護師、検査技師、薬剤師など多くの職員の出勤が求められ、対応しなければならない。そのための財政的支援を考慮していく必要があるためということで、背景としてこちらは要望してございます。以上です。

○**齋藤座長** よろしいでしょうか。また詳しい状況が分かるようなときには、改めて報告をさせていただくようにいたしますが、これについてはよろしいですね。そのほかにはございませんか。

吉田局長。

○**吉田議会事務局長** すみません。ただいまのところなんですけども、ですのでこの部分につきましては「年末年始の休日夜間診療における」というようなところになりますので、ここの提言2については、年末年始というようなところで、限定的な提言だったと認識してございます。

○**齋藤座長** 分かりました。それでは、提言2につきましては、回答はこれで皆さんに了解していただければと思います。

そのほかはございませんか。

山野井議員。

○**山野井議員** お疲れ様です。私も同じようなことを感じてたんですけど、提言の1についてもホームページでもうやってるからそれでいいみたいな感じなんですけど、そうじゃなかったと思うん

ですよね。新型コロナに関する情報の特化するページをつくるなり、コロナ版の号外を發表するなりということ求めていたと思います。これ今、市のホームページを開けますと、新型コロナに関する情報ということで、クリックすると外部サイトに飛んでいくような感じで、箇条書のものがただ羅列されてるだけなので、こういうことではなくて、症状があったらどうしたらいいのかというのを、クリックして進んでいって、どんな対応を取ればいいのかというぐらいのところまで、ある程度優しいつくり方をしてあげたほうがいいんだと思うんですよ。年末年始、今30件電話あったというものも、ある程度、もともと情報として皆さんにお伝えしておけば電話をかけずに済んだような内容も、多分電話がかかってきてくると思うんですね。まずは情報をしっかり伝えて、そういう電話を減らすことからやっぱり始めるということで、もっとその辺をもうちょっと考えてもらいたいと思うんですが、いかがでしょうか。この件について、ほかの議員の皆さんいかがでしょうか。

染谷議員。

○染谷議員 皆さんが言ってるように、やはり執行部の回答自体の丁寧さがいいというか、何かこう言っちゃいけないですけど、投げやりみたいな感じで……。ですので、もう少し丁寧な対応と議会に対しても、あと市民の皆さんに対しても、もうちょっと丁寧なつくり込みというんですかねー今、山野井議員が言われたような、そういうのができると思うんです。

○齋藤座長 ありがとうございます。そのほかはいかがですか。大丈夫でしょうか。年末年始についてのホームページのつくり方は一応終わって、その後も継続的に情報のほうを発信して下さるようです。なので、それにつきましては、今、御意見があったようなことをしっかりと取り入れていただいて、つくり込んでいただくように、再度私のほうからも申入れをさせていただくようにいたします。これでよろしいでしょうか。

[全員うなづく]

○齋藤座長 そのほかありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○齋藤座長 それでは、ただいまの件につきましては、以上でなしと認めます。

次に、無党派クラブからの提言等についてです。ワクチン接種について市の対応について、これについて説明を求めます。

細谷議員。

○細谷議員 今回、この提言あるいは意見、質問を出させていただいた背景は、御存じのとおり新たな段階に入ったと思えるような感染状況でございます。この決め手は——今まで自粛だけでは到底抑えられないというのも国の見解ですし、決め手はワクチンに一つはあるんじゃないかと。であるとすれば、これを迅速確実に接種するということが必要だろうということで今回提言させていただきました。具体的な内容を触れる前に、皆さんあらかじめ分かっていると思うんですが、現状を確認しておきますと、厚労省の考え方は、コロナウイルス感染者に直接医療を提供する施設の医療従事者、そして高齢者や基礎疾患を有する者、これを接種の希望順位の上位に置いて接種しますという考え方が示されたわけですが、これはこれで分かるんですけども、しかし具体的にどうなるの——どうするのかということについては、これは地方自治体で考えるべきところが多々あるだろうと。それで、幾つか自治体調べてみたんですが、前橋市の対応というのが出てきました。この前橋市は、これ12月25日です。市長が準備チームを結成して、滞りなく行うために体制を整えると。そして、医療従事者と打合せをして連携をして取り組んでいくんだという記事がございました。これを前橋市長が行った背景というのは、定額給付金10万円のときに、迅速に支給できる仕組みを整えられなかったと反省したと。接種を行う意思を支援するのは行政の役目、市民にワクチン接種を無事迅速

にどれだけ正確に実行できるのか、これが試され——求められてるんだと、万全を期していきたいということでございます。私も非常に同感するところありましたので、しからば、取手ではどうなのかと。これを今日段階の状況を確認した上で、幾つか提言させていただきたいということです。議長から先ほどお話ありましたように、取手でも当然準備を、あるいはいろいろな検討事項を進められてると思うんですが、その際、幾つか課題になるところがあると思います。先ほど言った医療従事者の順位というのは、これは医療従事者、関係者間で決めるようになるんだろうというふうに思います。高齢者の接種をどうするのかというのは、これは市が行わなければならないだろうと思います。まだ、具体的にクーポンとかというお話ありましたが、これが3万数千人、65歳以上、取手市にはおります。この3万数千人に全員に意向を聞いて、あるいはクーポンを送って——そういうやり取りが出てきます。定額給付金ほどではないにしても、かなりの作業になるというふうに思いますので、これを迅速、正確に行うには、準備チームを前橋のようにつくって取り組む必要があるんじゃないかということが1つ目の提言でございます。その中で、自治体でやるべきところは、場所の確保というのが、ほかの自治体の状況を見ますと出てくるというふうに思います。医療機関で行うということであるとすれば、取手の規模でいくと、かなり医療機関で行うには無理があるんじゃないか、これはこれから検討していく——していただくということでもよろしいんですけども、場所の確保というのは市の役割として行う必要があるんじゃないかと。内々、部門の担当者とお話しさせてもらってるんですが、学校が休校に——廃校になったところとか、あまり人の出入りが無いようなところで場所の確保なども考える必要あるんじゃないかというように、今後、接種ということになるとすると、具体的な課題というのができてくると思いますので、それらを抽出しながら、2月末に向けて、2月頃に接種という段階に向けて、今のうちから準備をしていくと。そのためには、定額給付金と同じような考えで、ワクチン接種支援準備チームを発足させて進めていただきたいというのが提言でございます。以上です。

○齋藤座長 それでは説明が終わりました。これについて何か確認事項、質問等、皆さんのほうからございませんか。

染谷議員。

○染谷議員 細谷議員の言われてること、もっともだと思ひまして、本当に今回、これだけの今までやったことのない全市民へのワクチン接種ですので、そういうチームをつくってやっていかないと、非常に対応しづらいただろうというふうに思っております。また、私もちょっとほかの市町村とか調べてみたんですが、補正予算を組んでるようなところにおいても、なかなか進んでないというのが実情のようでして、非常に詰めることが多いという感じがいたしました。厚労省のホームページを見ても、これだけのことをやらないといけないのかと思って、非常に大変だなというふうな思いがあるんですが、ただこの中で、いろいろとある中で、医療従事者間での優先順位をどう決めるのかとか、そういうことはあまり市が言うようなことではないと思うんですが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○齋藤座長 細谷議員。

○細谷議員 この医療従事者がまず一番先に来るとのことだと思ひますが、これは医療従事者間で決めるようになるんじゃないのかということコメントをしておきました。これは当然、医療従事者の方々で決めていただく話で、取手市のやるべきところは、市が保有している高齢者のリストに基づいて、今、お聞きしましたところ3万数千人という数でございますので、ここを取手市は確実、そして迅速に行うような体制を整えるということを求めていきたいと思ひます。あともう一つ、基礎疾患ということについてなんですけども、これも非常に難しい差があるというふうにお聞きし

ました。基礎疾患は具体的には示されてはいるんですが、それをどのようにリスト化していくということについては、幾つもの課題があると。これは恐らく担当になるだろう健康増進部とお話しさせていただいておりますが、こういう難しさが幾つもの、染谷議員言われたように課題が出てきますので、これは健康増進部だけではなくて、市全体で取り組む必要があるだろうということでございます。医療従事者については、言われたとおり、医療関係者で決めていただく問題ではないかというふうに思います。

○齋藤座長 そのほかございませんか。

結城議員。

○結城議員 この前橋市のところの話なんですけれども、これを細谷議員がくれた資料によると、この準備チームを結成して、基本的には福祉部——健康部か、健康部を中心としながら関係する部署と連携する形を組織するという形になってますけれども、これ取手でもしこういう準備チームをつくるとしたら、どのような形の提言をするんでしょうか。

○齋藤座長 細谷議員。

○細谷議員 これは、所管というか、中心は健康増進部ということになると思いますので、そこでこれだけの——3万5,000人対応するわけですから、いろいろ人員を集めなくちゃならないというふうに思いますんで、定額給付金のところは、新たに組織をつくって行ったということですけども、そういうこともありうるかというふうに思います。いずれしてもこれらの課題を健康増進部だけでできるということはかなり難しいんじゃないかというふうに思いますんで、市で支援するような新たな組織にするか、あるいは健康増進部の中に支援をもらってつくるのか、これは執行部のほうで考えてもらえればと思います。幾つもの——言いたいことは多くの課題があって、それらの課題を一つ一つクリアしていくためには、チームで行わなければならないだろうということで、市全体で取り組んでいただきたいということでの提言ということで、現状ではその程度で留めておきたいと思っております。

○結城議員 何となく、これ多分、取手市全体で取り組まなければいけないだろうなというふうには思うんですけども、果たして支援チームがどんな役目を持たせるのかとか、そこら辺まで提言していかないと、ただ支援チームをつくれれば——前橋のまねしてつくれれば、というのとはちょっと違うような気もするんですね。前橋はやはり人口も大き——取手には比べにならないですし、大学病院が大きなものがたくさんありますよね。赤十字もあるし、そういったところとの連携をとっていくっていう形での多分支援チームなんだろうなと思うんですけど、取手の場合は今のところ中心になってるのは医師会だと思うんですね。ですから今、取手市としても、医師会と健康福祉部は、密な連絡をとっているというような話を聞いていますので、果たして準備チームが必要なのかどうか、もうちょっと精査したほうが良いような気がしますけど。

○齋藤座長 細谷典男——細谷議員。ミュートになってます、ミュート外してください。

○細谷議員 これは高齢者3万数千人を滞りなく周知して、そして希望を聞いて、クーポンを発行して接種に持っていくというところについては、到底、健康増進部では足りない、これはもうほぼ現場でも同様の認識だろうというふうに思います。定額給付金ときには、臨時の職員を雇いながら行ったりはしてますんで、そういう枠組みは最低でも必要ではないかというふうに思うんです。いずれにしても、現状では到底無理で出来ないだろうということで、この提言をさせてもらった次第で、その前提はほぼ共有できるんじゃないかと言います。あとは市にどうしたらやる気を出してもらえるかということになるかと思えます。

○齋藤座長 そのほかございませんか。

金澤議員。

○金澤議員 今、結城副議長のおっしゃってることもごもつともだと思し、ただ何か皆さんの意見を聞いてると、意見——意思、何ていうか、意思は共有してるのかなという感じがありますんで、仮にこういった組織とか中身を変えるのであれば、まさしく市長の執行権の中——人事権の中でやる話だと思いますので、議会としては、こういう事例もあるよと、こういうふうな考えもあるんじゃないのという意味で、執行部のほうにお示しするのがいいと思います。以上です。

○齋藤座長 ありがとうございます。そのほかありませんか。

結城議員。

○結城議員 そうすると今の意見は、提言というよりは参考意見として執行部に出したらどうか、という意見としていいですか。

○齋藤座長 金澤議員。

○金澤議員 細谷さんの会派のほうから提言としてということでもありますので、あくまでも提言という形で出して、提言なんだけれども一応——何ていうの、細かいところまで議会に言うようにしてよというよりは、こういう事例もありますよと、こういう選択肢もあるんじゃないですかというようなスタンスで出すのがいいかなと思います。

○齋藤座長 ありがとうございます。

細谷議員。

○細谷議員 ですから、基本的なところはワクチン接種、極めて重要だと。今後、コロナをに打ち勝つ決め手になるものの1つだということで、これを迅速そして正確、確実に実施する——してほしいと。そのためには、幾つかの課題がありますねということで提言していただければというふうに思います。以上です。

○齋藤座長 ありがとうございます。そのほかにはいかがでしょうか、ありませんか。大丈夫でしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○齋藤座長 では、細谷議員とそれから皆様にもちょっと確認をさせていただきますが、提言の1の支援準備チームの発足の前の部分ですけれども、項目が幾つも質問の形で出ております。以下の事項を含めて検討事項を明らかにすることということで、細谷議員、いろいろ述べていただいているんですが、この中で、医療従事者内の順位、医療従事者間で決めるようになるのかということとは外すということで細谷さんよろしいですか。

○細谷議員 市のやるべきことですが、特に高齢者の方などの周知徹底、そして接種までを重点において考えていただければと思います。医療従事者は当然こちらが口出すことでもないというふうに思いますんで、それは外すということによろしいと思います。

○齋藤座長 それでは、これ、ほかのところの項目はいかがでしょうか、細谷さん。接種場所の確保まで含めてですけど、何項目かありますよね。

○細谷議員 これは今、こういうものがあるんじゃないかということで挙げさせてもらったところなんで、課題としては、接種場所、この確保については取手市も大きく支援していかなければならないということになるんで、これをどのように考えてるのかということは聞きたいところです。

○齋藤座長 では、特に聞きたいのは高齢者についてということと、接種場所の確保大丈夫かということ、そこを確認しつつ、ワクチン接種支援準備チームを発足させるという提言ということでよろしいですね。

〔細谷議員うなづく〕

○齋藤座長 はい、分かりました。それでは、この①ワクチン接種について市の対応についてということで、先——今まとめましたような項目について確認をしつつ、提言としては市全体で取り組んでもらうワクチン接種支援準備チームを発足させることというふうになりますが、これに賛成の方は、画面に分かるように挙手を願います。

〔賛成者挙手〕

○齋藤座長 全員賛成です。よって提言とすることに決定いたします。

次に、無党派クラブからの提言等についてです。②市民への注意喚起についてです。説明を求めます。

細谷議員。

○細谷議員 この点については、年末年始のところでホームページの議論もありましたけれども、あと市の広報紙などでも、当然、年末年始、この注意喚起が必要ではないかというように、考えていたところ、紙面を見てみると、そのコロナと疑われる、あるいは発熱したその時、どうすればいいのかと、年末年始特に相談するところも限られてくるという中で、そういう案内が極めて乏しかったというようなことから、今後、この広報紙についてはコロナ対応に——コロナ禍対応に重点を置いたような紙面づくりというのが、この一、二カ月必要なんではないかというように考えました。広報紙はもう定期発行ですから、当然、編集企画会議を開いて、どういうことにしようかというのをあらかじめ決めて、紙面づくりするというのは承知はしておりますけれども、臨機応変に注意喚起——何ていいますかね、市民への注意喚起も、また一段の自粛の協力を求めるしかない段階で、この広報紙の活用ということについては、編集方針を、コロナ対応重点に置いた紙面づくりを求めていきたいということと、あと市民への周知の点でいうと、広報カー、車ですね——広報宣伝カー、あるいは防災無線こういうものも活用して、今日は4人ですか、5人ですか——かなり多くの数が出てますし、ここ2日間、東京もそうですから、東京から本当に染み出てきているというような状況になってきてますんで、こういうことも活用しながら、この危機意識等を持ってもらうというような意味で、この車と防災無線を活用して注意喚起を行っていくべきだろうということが、これ提言というよりも要望といえますか、そういうところでございます。以上です。

○齋藤座長 ありがとうございます。説明が終わりました。何か確認事項、そして質問とか質疑ありませんか。

結城議員。

○結城議員 市民への注意喚起という形で題名がついてるんですけども、この注意喚起というのは、コロナに対しての広報紙についての記事ということと、どんなふうに考えているんでしょうか。注意喚起の意味ってどういう意味なんですか。

○齋藤座長 細谷議員。

○細谷議員 まず、自粛をお願いしてるわけですから、接触しなければ、拡大はかなりな確率で低くできるということになりますので、これだけ蔓延してきている——状況が厳しくなってきたというのをまず伝えて、それを——状況を理解いただいて、自粛に協力をいただくということになります。そんなのはもう分かってるよというようなことだろうというように思うんですが、この危機意識が足りない、あるいは緩み、たるみがあるから、今日のような事態になってきたというふうに思いますんで、これを食い止めるためにはできることの一つとして、行政のほうの市民への危機意識を持ってもらう、その呼びかけ、その注意喚起が求められるんじゃないかということで提案をさせていただいています。

○齋藤座長 ありがとうございます。

そのほかありませんか。

関戸議員。

○**関戸議員** 広報紙の、その編集方針——コロナ対応にもっと重点を置くというのは、私、必要なというふうに思います。それから広報車による宣伝とか、防災無線の活用というのも、なかなか防災無線をほとんど利用できないというかね、防災に関する以外は、行方不明者と教育委員会の子どもの見回り、もうこれ以外はほとんど使われてない——使えてないと思うんですが、そういう意味では、やはり活用をしたほうがいいんじゃないかというふうに思っています。

○**齋藤座長** ありがとうございます。そのほかありませんか。

染谷議員——細谷さん。

○**細谷議員** 付け加えさせてもらいますと、取手は前に1回広報車で市内を注意喚起したときがあります。これ私、正確には確かめてないんですけども、1日で終わったというようにお聞きしました。終わった理由についても、これも正確には確かめてないんですが、広報車で回ったりすると危機意識をあおると、あんまり怖い怖いというようなことを言われちゃ困るというような声もあつてのことだというように聞きました。であるとすれば、これを——逆に言えば、やることによって、より市民の注意喚起が増す——注意が増すんじゃないかというふうに思うこともあつて、今回入れさせてもらったんです。ですから、これをやることによっていろいろな意見はあるかと思うんですが、危機をあおってどうするんだと、自粛——逆に縮こまっちゃうんじゃないかという意見もあるかと思うんですが、現段階ではやるべきときではないかということで提案させてもらってます。以上です。

○**齋藤座長** ありがとうございます。

では、染谷議員。先ほど手が挙がりました。

○**染谷議員** 細谷さんの言われてること、よく分かりまして、もう少し紙面を増やせというのはそうかなと思っております。あと、これから市民の皆さんの関心は恐らく予防接種のほうにいくと思うんですね。それに関して一番情報を入手できるのが、広報とりですので、そちらのほうにしっかり重点を置いていただければなというふうに思っております。

○**齋藤座長** 金澤議員。

○**金澤議員** 私も細谷さんの言ってることよく分かるんですけども、これは2つに分けたほうが——整理したほうがいいかなと思うのは、一つはそういった危機意識を高めるための広報活動と、それともう一つはそのコロナに関する情報をどうやって市民の方に伝えるかというところで、私、その危機——例えば「三密」を避けてくださいとか、そういうコロナ感染を防止するための方法というのは、もう正直毎日テレビでも繰り返し繰り返しやってますし、私はもう皆さんある程度そのどうやったら防げるかというのは、意識の中ではあると思うので、それよりは、例えばその前段の広報紙で、今後、コロナの予防接種はこういうふうになってきますよとか、コロナ関連の情報を、量を豊富にして市民の方に手厚く伝えるというほうが、ぜひしていただいたほうがいいと思います。以上です。

○**齋藤座長** ありがとうございます。

結城議員。

○**結城議員** 私もその注意喚起については、多分、一番注意喚起しなきゃいけないのは、若い世代の人たちの注意喚起だろうと思うんです。ある程度の高齢の人たちは自分の身がもう本当にかかる大変だということで、かなり危機意識を持っていると思うんですけども、注意喚起をしなきゃいけない世代というのは、逆に広報なんかを読まない世代なんじゃないかなと思います。だからそう

いった意味では細谷さんが言ってるみたいに広報紙はもちろんそうなんですけれども、防災無線とか、そういう何でしたっけ、広報車を使って若い世代にどうやって注意喚起をしていくのかということを考えるのも必要なのかなと思います。

○齋藤座長 ありがとうございます。

細谷さん、何か……。

○細谷議員 ですから、その広報の内容、そしてその紙面の内容、これは状況に応じて適宜状況に合わせたものを盛り込んでいただきたいと思います。ですから、広報紙も編集企画で、あらかじめ記事内容を決めてはあと思うんですが、そこを弾力的に必要なところは必要なことで紙面を拡充するという場合があれば、そういうようになるような編集方針で臨んでほしいということ。以上です。

○齋藤座長 ありがとうございます。吉田局長、手が挙がっておりました。

○吉田議会事務局 suite、先ほど広報車で——宣伝カーのほうで回った実績なんですけども、こちら11月の28日から12月13日までの外出自粛要請が出されたときには、11月の30日から12月の13日までの14日間、平日が午後2時から4時まで、それから土日については午前9時30分から11時30分までということで、広報車のほうを回しているということでございます。

○齋藤座長 ありがとうございます。ほかにもございせんか。大丈夫でしょうか。

それでは、細谷さんにも確認してもらいつつですけれども、今、議論しております市民への注意喚起についてにつきましては、内容は、状況に応じていろいろ考えながら進めてもらいたいけれども、情報と、それから危機意識も含めて、さらに市民への発信ですね、これは工夫をしていただきたいというような内容になろうかと思ひます。これは第16回提言に先ほど報告事項で説明したときの皆さんの御意見、ホームページのお知らせについてのところともちょっと連動するところがあるかと思ひます。紙面に工夫をしていただく、ホームページのつくり方にも工夫をしていただいて、情報と、それから危機意識を発信していただく、というような内容になろうかと思ひますが、これ、このような内容の提言になると思ひます。これでよろしいでしょうか。

関戸議員。

○関戸議員 今のまとめでいいと思ひます。それで、私が本当に、この間の感染爆発を見てやっぱり大変だなと思ひるのは、取手もそうなんですけど、恐らく感染者がうんと広がったときに、自宅での——なんというんですかね、保護というのは、やはり家族に感染を広げてしまうということからやっぱり、どうやってその保護施設を確保していくのかというのが、やっぱり大変大きな問題になってくるよなというふうに思ひます。もう一つはやっぱり介護施設や社会福祉施設ですよ、こういうところの感染が結構大きな影響出てるということから、やっぱりこういうところの入所者や職員へのPCRの社会的な検査が、やっぱりすごい必要になってくるというふうに思ひます。だから、そういう意味では、この後緊急事態宣言による対応についてとあるんですが……

○齋藤座長 関戸議員、それ、ここのコーナーでなくて別のコーナーで、もし必要であれば……。

○関戸議員 (続) 提言などについてとあったものですからそこをちょっとお話ししました。別のところでやります。

○齋藤座長 それでは、今テーマになっている市民への注意喚起、無党派クラブからの提言についてです。これについては、賛成の方、画面に分かるように挙手願ひます。

[賛成者挙手]

○齋藤座長 全員賛成です。よって、市民への注意喚起については提言とすることに決定いたします。

それでは、次に緊急事態宣言による対応についてです。何か確認事項や質疑等ございませんか。

[挙手する者なし]

○齋藤座長 なしですね。それでは、なしと認めます。

次にその他です。構成員から何かございませんか。

関戸議員。

○関戸議員 すいません、今お話ししましたが、この状況でいくと物すごい勢いでやっぱり増えるんだらうというふうに思うんですね。そういう意味では、1つは感染者をどう確保して保護していくかというのはすごく大事になってくるんじゃないかと思えます。それで前のときは、医師会病院の病棟で病後ケアのところを開放してやったと思うんですが——患者を受入れたと思うんですけども、そういう意味では自宅での保護というのが、やっぱり家族への感染を広げてしまうという点から、この保護施設の確保を、やっぱり市にしっかり——市並びに医師会病院も含めて、そういう点では、1市3町になるのか——3市町になるのか分かんないんですが、やっぱりそういう確保をしっかりやってくということがすごい大きな問題になってくんじゃないかなと思ってます。もう一つは、やはり茨城県内を見ている、やっぱり介護施設とか社会福祉施設からの——あるいは病院なんかもそうなんです、やっぱり、そこから出てるというのも、すごい心配されます。そういう点では、こういうところの職員や入所者へのPCRの社会的な検査をやっぱり広げないと発症しない、感染していても発症しない、ここをやっぱりどう早く保護するかというのは、大変大事になってくると思うんで、この2つのところは、やはり提言する必要があるなというふうに思っています。

○齋藤座長 ありがとうございます。関戸さん、この2つ、感染者の保護について、それから介護施設等における入所者、職員さんへのPCR検査については、提言にしたいということですか。

○関戸議員 はい。もし提言にさせていただければ、ぜひ提言していただきたいと思えます。

○齋藤座長 それでは、今、関戸さんからお話のあった2つについてです。御意見のある方、質疑等ある方……。

山野井議員。

○山野井議員 すみません。確認なんですけども、そのPCR検査対象というのはあれですか、無症状の方も含まれるんでしょうかね。

○齋藤座長 関戸議員。

○関戸議員 無症状の方も含みます。今言ったように、その職員、入所者、ここに対して検査をするということです。

山野井議員。

○山野井議員 これについて、自分は何か——前からなんですけど、このPCR検査って1日2回も3回も要するに人と抵触する、もしくはそれに関わる動きある度にやらないと意味がないって言われてるものですよ。この間の医師会の方々とお話の中でも、できれば症状があっっておかしいぞというときにこそ検査をして、それが9割とか10割近いしっかりした陽性者というのが分かるというものなんです。だから、いきなり駆け込まれても処理能力が、というのは今言われてる、全国各地へ行ったり、医療崩壊につながるのということになると思うんですが、その辺はどう考えですか。

○齋藤座長 関戸議員。

○関戸議員 そういう考え方で国のほうは今日まで来ました。私は、そのことがやはり無症状で感染を広げてしまうというそういうことになってると思うんですよ。そういう意味では、毎日検査す

るということはもちろん無理がありますから、例えば2か月に一遍とか3か月に一遍とかとなると思うんですけども、やはり、そこを広くやるということが、やっぱ早く見つけるという意味で、大変大事なことになるんじゃないかというふうに思うんです。先進——例えば台湾なんかもそうなんですけど、やっぱり徹底した検査をやって、早く隔離し保護するということがやられたんだと思うんですよね。そういうことが、いよいよ大事になってくんじゃないかな、というふうに思っています。

○齋藤座長 山野井議員。

○山野井議員 テレビの内容なのか、ちょっと御自身で調べた文献からお話しされてるのかちょっと分かりませんが、我々、国の方針と同じことを言わなきゃいけないわけじゃないと思うんですよね。だから各自、その議員が持つてる情報の中で、是非を判断したいというふうに考えてますので、私はそうではないと思っています。

○齋藤座長 そのほか質問。

金澤議員。

○金澤議員 質問というか、進め方というかなんですけれども、今関戸さんから提言にしたいというようなお話がありました。ただ今の関戸さんの話言葉の中でしか判断出来ないというところもあります。今回、開催は細谷さんの無会派クラブのほうから、具体的な提言書というのがあって、それで議長に対して開催を申入れたものなので、そういった形にさせていただいたほうが、全員で文面で共有したほうがいいかなと思いますので、それはもしそういうことであれば、そういう形をとってもらえればと思います。以上です。

○齋藤座長 ありがとうございます。

関戸議員。

○関戸議員 はい、そういう形をとらせていただきたいと思います。世田谷なんかでも、相当頑張っていますけども、なかなかグループ検査も、国は推進してませんし、そういう意味では、もっと広くできる方法あるわけで、そういうことも含めて提言の案として出したいと思っています。それで、これコロナの——コロナ支援の問題なんかも、この間、取手市独自でやってきた持続化給付金、3割から5割のところ、あるいはテイクアウト——テイクアウトももう終わっています。持続化給付金も15日で終わると思うんですが、こういう実施状況などについても、ぜひ、実行状況というか、どんな予算に対してどんなだったかということもぜひ聞いて——執行部に聞いてみたいと、出させていただきたいと思っています。恐らくこれでいくと、緊急事態が——事態宣言が茨城の地域までやっぱり入ってくるというふうに私は思うんですよね。そういう点では、この間やってきたテイクアウトなんかも、ますます飲食店なんかにとっては、むしろもう終わりましたけど、むしろこれで再開するようなことが、大変大事になってくるんじゃないかなと思いますし、持続化給付金なんかも引き続き継続するというのも、大事になってくると思いますので、そういうことも含めて、改めて提案したいと思います——提案をします。取りあえず今意見として述べさせていただきます。

○齋藤座長 ありがとうございます。それでは関戸議員、今述べられた二つの御意見につきましては、次回提言とされるということでよろしいですね。ありがとうございます。

ほかに皆さんからございませんか。

金澤議員。

○金澤議員 私はできればちょっと執行部に申入れというか、注意喚起というか、していただければと思うことがありまして、例えば、最初に提言したお医者さんの先生たちへの財源とかということなるんですけれども、具体例を出すと、例えば東京都の小金井市では、そういった医療従事者のために協力金をということで、市がクラウドファンディングでお金を集めました。そういったや

り方も一つあると思います。プラス、それ以外に、お隣のつくばみらい市の小田川市長とちょっと年末に会う機会があって、市長がおっしゃったのが、ある経営者の方が、お年玉と言って自治体に500万円配りますよというところで、小田川市長はダイレクトメールを直接送ったら、採用されましたというお話がありました。私は何が言いたいかというと、実際、取手市もそういったいろんな補助金とか、そういう財源確保、努力してるかもしれませんが、何かそれが見えて伝わってこないで、何かそういったものを、もうちょっとこう熱意を持っていろいろとチャレンジしてもらいたいなと最近思うところがございまして、やっつけてくださってるのかもしれませんが、ちょっと伝わってこないものがあつたので、もし、そういうところで何かうまく言葉にしていればと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

○齋藤座長 金澤議員から執行部に対しての御意見が今出たところでございます。

何か皆さんのほうから御意見、また質問とかありましたらどうぞ。

染谷議員。

○染谷議員 今、金澤議員言われたように、なかなか取手市の対応が見えづらいというのがありまして、先ほど小田川市長のことを言われてましたけども、フェイスブックなんかで、非常に発信してて、「あ、こんなこともやってるんだ」というのが非常に分かりやすいんですが、市長は確かやらないと言っていたので、やらないんだと思うんですけど、もうちょっと市のほうのホームページとかフェイスブックなど、SNSを使ったことでやってることを発信してもらわないと、私たちも知らなかったり、市民の皆さんよく知らないってことがありますので、もっと分かり——目に見えるようにしていただきたいなというふうに思っております。

○齋藤座長 ありがとうございます。そのほかありませんか。

関戸議員。

○関戸議員 前回の感染症対策会議で、感染症とは別の問題でJRの千代田線の問題がありました。私もこれ大変な問題だというふうに思っています。そういう意味では、今でも昼間走ってない、朝早く夜も走ってる、夜遅くも走ってないんですが、これがもう土休日運休というふうになるとますますこうなっていくんですかね、人が少なくなるというか、逆になっていくと。JRはね、経営上の問題を挙げてるようなんですが、実際にこの間進めてきた東口からのバリアフリーという点でいくと、やっぱり千代田線ホームドアとエレベーターということで進められているんですが、今回のJRの……

○齋藤座長 すみません。JRの話になりますか。

○関戸議員 (続) はい。JRの話です。ということで、私が言いたいのは……。

○齋藤議員 感染症対策会議なので、それで今、金澤さんから出た御意見について皆さんで協議している最中でした。

○関戸議員 はい。いや、その他と言ったと——言われたんで……。

○齋藤座長 その他の中なんですけど。

○関戸議員 いや、金澤さんの言われてることについて、私もぜひ進めて、やっぱ広報などで発信していくということが主だと思っています。ただ、JRについてはこの前出たものですから、ちょっと言いました。議会として、やっぱり申し入れしたほうがいいんじゃないかというふうに思ってます、JRにね。

○齋藤座長 ありがとうございます。

それではそのほかございませんか。金澤さんから出た御意見につきましては、それではこういう御意見が出たということで、そういう形でお伝えするということができますし、皆さんから何か、

いやこれこういう形でまとめたほうがいいとか何かありましたら、そのようにもさせていただくんですけど、いかがでしょうか。

[挙手する者なし]

○齋藤座長 じゃあ意見として、議会の意見として、そういう皆さんの共通認識ということでよろしいですかね。よろしいですかね。意思表示そのように解釈させていただいて、議会の意見として伝えさせていただくことにいたします。よろしくお願いいたします。

それで、関戸さんのJRについては、またこれ別のところというか感染症対策会議とはちょっと違うかなと思いますので、よろしくお願いいたします。よろしいですか。

関戸さん。

○関戸議員 そういう意味では感染症というよりは、会派代表者会議みたいなのが——で論議する必要あるのかなと思ってます。

○齋藤座長 では、いずれそのようにお願いいたします。では、皆さんからないようであれば——大丈夫ですかね。

では、事務局から何かございませんか。

[吉田議会事務局長うなずく]

○齋藤座長 局長、次長、大丈夫ですか。ありがとうございます。

それではないようですので、第17回取手市議会感染症対策会議を閉会いたします。

午後 7時07分散会